全ての存在と重なって 自然の力が調和へと 社会を正道へと戻す

神は、一般社会で学べないことを、神示をもってお教えくださいます。神示から真理を学ぶのはもちろん、社会の動き、人々の心の変化、これから社会がどう移り変わっていくのかを知り、その中でどのように生きるかをつかむことが大切です。

世の中の動きを神から学んでいると、何があっても気持ちが大きく揺れることはありません。神示から真理が言われたとおり、社会の動きがこうなっていると捉えられるからです。その中で自分が留意すべきこともつかめます。

人の力を超越しているのが、自然の力です。その力が社会を調和に導いていくと、神は言われます。調和に向けて時代が移りつつある中で、流れに乗って生きる自分になることが必要です。

こうして神からご指導を受け、真理に沿う生き方ができるようになっていけば、確実に心の成長があるはずです。開運に向けて前進できます。神も、このようにお教えくださっています。

供丸光先生が神示を基に生き方を

神示　信者に申す　なぜ社会の変化が大きいのか　分かるかや

人間の非力を知ること　自然の力は　分かるかや
神の手の中　調和する世界にあるもの
運命を通し　守られる人間は　今日まで
万物全ての運命と　人類は　知識　努力を絶対視し
調和して生きている　精神世界の真実を忘れて
「人生」で起きる　歩んできた
全ての出会いが生かされるように　「真理」なき知識を頼り
奉仕心を欠かぬ意識が必要　苦しみ　迷い　悩みを
「教え」に生きる努力をする　深めた社会を
人の心は　実体を上げ　「正道」へと戻すため
不安に迷う心は起こらない　自然の力が大きく動いている
人　物との縁が深まり　生かされ　この真実に気付いて
調和する社会が戻ってくる　「道」欠く心の動きを
人間は「真実の愛」を求めるもの　取ってはいけない
この愛は　調和して「生きる」
環境に生まれる

万物の運命と協調する人に

神は、人間の非力さを知らなくてはいけないと示されました。人の力が万能であるはずもなく、持っている力にも、努力にも、限界があります。

人間の非力さを知り、また誰も運命実体が違うことを承知して、的を射た努力をすることです。自分に与えられた運命を枯らさない努力です。運命に重なる努力は、必ず実ります。

一人一人が持つ運命の共通点は、誰もが社会に必要とされ、人の役に立つということです。その役立ち方が、それぞれに違うのです。人間は、非力でも、運命に重なる努力なら、必ず結果が出ます。また、教えに生き、実体、品性を高める努力も、確実に成果がありま す。真理に沿えば、物事はうまくいくのです。

世の中にあふれる知識に流されるのではなく、真理に沿う考え方、道理にかなう考え方をすることです。

心の安定こそ不可欠 真の健康を我が手に

健康への関心が高い現代。健康を維持するために、さまざまな情報があふれています。そうした知識も大切ですが、何より目を向けなくてはいけないのは、心と体が連動している事実です。

世の中では、あれが良い、これがいけないと、いろいろなことを言い合います。聞けば聞くほど迷います。それが知識の弊害です。しかし、神の教えに生きれば、心が安定します。感情に流されることはありません。

まずは、心の健康を求めることです。人を批判したり、否定したりするのが、自然の力です。そこに、さまざまなものと協調して生きることができるのです。

周りの全てが自分を守る味方となります。人から好かれる存在になれます。そのような人は、人をえり好みすることもなく、多くの人と調和できます。人のために尽くそうとし、相手からも守ろうとしてもらえ、互いに支え、尊敬し合える関係になれます。

そこに、万物と調和できます。万物とは、人間だけでなく、環境も、自然の力や時代の流れも全てそうです。流れに乗って生きられるのです。現実をありのまま受け入れて、不安や不満に思うこともなく、自分にできることを尽くしていく、とても単純化された生き方ができるものです。

真実の愛へと自身を高める

人生には、いろいろなことがあります。いろいろあるから楽しいのであり、人生で起きる全ての出会いを大切に生かせるように、奉仕心で生きることです。時に、意に沿わないこと、悩ましいことがあったとしても、自身の運命実体を高める教科書と受け止めることです。運命は、良いものです。ですから、実体を修正し、良い運命を生かせるように、自身の心を高めていくのです。

神は、教えに生きる努力を強く促されます。品性を高める努力は、楽しいものです。神魂のご守護の中で必ず成果が出るからです。実体が引き上げられ、不安に迷う心が起こりません。心が安定します。すると、物事の考え方が単純化して、周りの社会とさまざまな縁が深まり、調和が広がっていきます。

人は、真実の愛を求めるものと、神は示されました。真実の愛とは、奉仕心が実践できる生き方です。人が持つ自己愛、真の愛と、自分と同様に人も大切にする他者愛、純の愛と、両方を兼ね備えた心が真実の愛です。そのような心を身に付けた人を、多くの人々は求めるのです。

人と支え合い、補い合い、真実の愛を求めるのが、人間の本性です。ですから、教えを学んで、感謝の心、奉仕の心、真実の愛を持つ心へと、自分自身を高めていくのです。

教えを学んで世に貢献する存在に

真理に沿って 真実を見詰め

教えを学び、真理に染まる、調和の成った環境を、まずは身の回りに広げていきましょう。自然の力は、調和する世界にあります。時代は、大きく変わります。神の手の中、真理で回る時代へと変わっていくのです。

そうしたうねりに気付かない人は、いつまでも旧態の思考を繰り返し、理屈にこだわります。何か問題があれば、いつまでも人を責めます。そうではなく、何が真理に沿うやり方なのか、前向きに考えることです。

従来の社会は、知識、努力を絶対視して、精神世界を見失った状態でした。大切なのは、精神世界の真実に目を向けることです。真理を欠き、迷い、悩みを深めた現代を正道に戻すため、今自然の力が働いています。教えを学ぶ信者であれば、この真実に気付き、流れから外れないように、道を欠く心の動きを抑えることを、神はご指導くださっています。

神示　真理」に気付きを得て　「人生」歩む人は皆

心安定し　「道」欠き　外す動きは取らない
真の健康を手にして「生きる」　人の姿が
ここにある
社会の真実を知らずに　ただ財を求めて努力する
この姿に　体調を崩し　病気を引き込み
人生を枯らすのである
「真理」に悟りを得て　日々歩むなら
人は必ず　真の生きがいを手にできる
心と体は調和し
「運命」が悩み　迷う心を抑えてゆく
人　物との出会いを生かす
正しい関わりを深める力は「運命」
「運命」を磨き　枯らさぬ努力に
人は皆　真の健康を手にできる

夫婦の原点を見詰め 教えに生きる家庭を

神寿の集い

七月八日、夫婦の原点を見詰め直す神寿の集いが行われました。神の御前で神受祭を挙げた二人が、年に一回、神示を基に互いの心を振り返るひとときです。昭和五十九年に始まったこの会は、数えてもう三十五回目。神の御元で契りを交わした夫婦が、神寿会の会員として毎年増え続けています。そして、毎年七月に全国の会員が集まって、神の教えに生きる家庭の在り方を確認し合います。

若い二人も、年輪を重ねた夫婦も、神示を基に心を見詰めると、新鮮な気付きが得られ、絆がより深まります。今年の神寿の集いに寄せ、神はこのように表されました。

神示　神が与えし「運命」の力を　家族の開運のために　生かす努力を　欠いてはいけない

運命の力は　「和心」育つ家庭で芽吹く
「真実」を知って　「教え」を家庭に生かす
「教え」のある家庭に　人の心は　神の手の中守られ
運命が導く人生を歩める
夫婦二人の会話　関わりが　いかに大切か
夫婦の会話も欠き、自我を張り　互いに自我を張り合い、良さを生かせない家庭も少なくありません。精神界、すなわち一番大切な心を見詰めることをせず、物質的なことにばかり価値を見よ うとするから、夫婦の絆も、家族の調和も欠くことになります。互いの運命を生かし合えず、逆に良さを殺し合うようではならないのです。

神の教えを学ぶ夫婦で仕合せの基は和のある家庭であり、その基本が夫婦です。夫婦を中心として、家族の心が重なるところに、それぞれの良さが磨き合えます。

しかし、世の中では、人それぞれ置かれた環境が異なります。立場も違えば、時期も、場所も十人十色です。その中で誰にも欠かせないのが、奉仕に生きる心です。自分の持っている力を周りの存在のために生かそうとすることです。そこに万物とつながります。

人間ばかりか、万物の根源である神は、全ての存在が重なり合い、補い合って、調和を取りながら成立する社会をつくられました。その自然の力と調和、順応して生きようとすることこそ、流れに乗って生きる姿です。

万物の命が知恵で生きています。植物は、光を求め、水を求めて育ちます。その中で知恵を駆使できるのが人間です。神から知恵を学び、真理に沿って生きる自分となることです。

流れに乗って生きる 調和 順応することを

光友会

青年世代でも、学ぶ意欲にあふれた若人の登録制で行っている光友会。神が示される真理を深く探究し合っています。

時折、神のご指導の中に、「流れに乗って生きる」と出てきます。神が説かれる流れに乗った生き方とは、社会に迎合することではありません。真理を踏まえた、運命に重なる生き方です。

人の力など、自然の力に比べれば、実に小さなものです。目には見えない運命の力で回るのが、この世の中です。文明、文化が発達し、人間がさまざまなものを生み出したことは、そこにあった物を使う手だてに限られています。

それを思えば、人は謙虚に生きるべきです。自分にできることで、世の中に役立とうとすることです。流れに乗って生きるとはどういうことか、調和、順応することについて、神はこのようにご指導くださいました。

神示　人類を守り　育み　進化を導いた太古の姿に　起源がある

人間に時代を導く力はない　人類が生み出したものは　何もない
自然の力が見えないために　自然環境に寄り添われて　今日を生きている
人類が歴史をつくると思う　自然の力に調和し　順応して生きることが
真実は　人間も生きている　いかに高い心か
この真実「真理」を知って　「教え」を学び　悟れる人であれ
我が「運命」を　万物全ての命を生かし
世に奉仕する心を持つこと　世界を平和に導く姿は
奉仕の心は　万物の命をつなぎ　時代の流れに乗って「生きる」
調和して「生きる」社会を育む　人の心にある
環境に順応して「生きる」姿を
思い浮かべてごらん

神が宿る神所を活用 家族で教えを学んで

神魂が宿る偉光会館。全国どの神所も、直使が願われ、神が開いてくださった、一人一人にとって掛け替えのない御場所です。この救いの場を生かし、神の教えを繰り返し学び、祈願で身に修めていくところに、開運へと着実に歩みを進めていくことがかないます。

しかし、その尊い救いの館を十二分に使いこなせていない現状もあります。使いこなすとは、教えを学んで、学んで、学び込んで心を高め、物事の感じ方、受け止め方、考え方、まさに生き方が大きく変わっていくことです。そこに、実体に流されず、運命に重なる生き方ができるようになっていきます。

神は、この現実を打破するために、折に触れてその地なりの課題をお示しくださっています。神示にこそ、各人が目を向けなくてはならない、課題を克服する鍵があります。

七月二十二日、供丸光先生は北海道札幌偉光会館に出向かれ、神示を基とした特別講義を行ってくださいました。

神示　和のある家庭――

この一言「真理」の　あるべき心の姿が見えてくる
神が宿るこの地ゆえ　「教え」を家族で学び
我が家に生かすほど　家族の心は重なり
運命が導く人生を　歩む人が育つ
六つの花びらが咲き始め　心も　体も
神の手の中守られてゆく
迎える晩年　信者の心は　努力が生きて
実りを付ける

時代の姿が大きく変わろうとする今
信者は家族で「教え」を学び
「真理」に生きる家庭をつくる心が必要
――「教え」に生きて
人は運命に重なる「人生」を歩んでゆける――
「生きがい」を手にし
喜び多い人生を歩む　人の心が　ここにある

発行所　横浜市南区宮元町４丁目
82番地　郵便番号232-8515
大山祇命神示教会神総本部
編集部
電話　045・731・5373
©大山祇命神示教会　2018

神の教えは、豊かな人生を歩む知恵です。物の見方や感じ方は人それぞれ。その違いを知って、自ら調和する知恵があれば、どのような事態にも、柔軟な心で臨み、その場に即した対応ができるものです。心にゆとりが持てて、周りに配慮した行動が取れるので、多くの人の支えが得られ、より良い結果を生み出します。神の教えを知恵として、悔いのない人生を歩み抜くことができるのです。

教えを生きる知恵に
自分を見詰めて実践
潤いのある社会へ

温かく触れ合う心に笑顔がこぼれ

奉仕の心で　愛の触れ合い

神の教えが心にあれば、何げない会話にも、相手の思いを感じ取り、愛ある触れ合いが持てることでしょう。

ある女性は、知的障害のある十八歳の孫から、「おばあちゃん、僕は何を学んだらいいかな」と質問された時、「友輝会の教科書や勉強会の内容は難しいのでは…」という不安が胸に。すぐに、「周りが駄目出しして孫の自立を抑えてはいけない」と思い直し、純粋な孫の思いをしっかりと受け止め、向き合うようになりました。

介護ヘルパーをしている女性は、在宅のお年寄りと触れるたび、自分の心が豊かになれることが楽しみです。幼い頃に母親を亡くしているため、「生きていれば母もこの年齢に…」と思うと、いとおしさが込み上げてきます。ある日、認知症の女性に「いい子、いい子」と突然頭をなでられた時は、思わず涙がこぼれました。人と触れ、多くの感動に出会える今の仕事が天職と思えて、奉仕心が枯れることがありません。

日常生活で教えを生かすほど、人を思う心が引き出されて、自分や周りにも愛が広がっていきます。

教務相談から　理解を深めて

人生には悩みが付き物です。そうした悩みの解決に向けて必要な心の在り方も、神の教えからつかめます。教えを基に職員が助言する教務相談を、多くの人が利用しています。

仕事に就けない二十代の息子の将来について、初めて相談した母親です。母子家庭で暮らす、今の自分に必要なアドバイスを受けた後に、一人親の会を勧められました。勉強会では、具体的な事例を基に親子の在り方がつかめ、母親としての自信が持てて、大きく心が前進しました。

自営業が不振の六十代の男性は、仕事を家庭に持ち込まない一本気な性格でした。心が苦しくて出席した勉強会では、「仕事の基盤は、和のある家庭から」と学びました。さらに、相談でその意味がよく納得でき、初めて家族に思いを語れました。

相談で正しい生き方を確認

「心配を掛けたくない」と一人で抱え込んでいては、家族は余計に心配するもの。客観的に自分を見詰めるゆとりが持てるようになると、教えの理解も深まり、悩みの解決に向けて、的を射た努力ができることでしょう。

光る人柄が　周りの手本に

教えを毎日の生活で、ごく自然に生かしている人たちは、社会でも広く求められる存在になっています。

ラジオ番組の制作責任者の女性は、男性社会の業界でも、確かな信頼を築き上げてきました。先を見据えた企画力と深い洞察力に加え、多くのスタッフとの調和を欠かしません。相手の心の動きを感じ取り、それぞれの個性を最大限に引き出すことに取り組んできました。仕事への評価は、高まるばかり。リスナーの声や番組司会者の感謝の言葉に加え、大手スポンサーから「この人に任せておけば安心です」と信頼され、生きがいを感じています。

作業現場を預かる管理職の男性は、神の教えを基にチームのメンバーへの感謝を忘れず、個々の成長を願う心で礼では、どんな事態にも自信を持って触れてきました。安全第一の現場の朝対応できるように、具体的に指導。定年退職を迎えた今年、「物事の本質を考えて柔軟に動くこと。このご指導が絶対に忘れません」と、たくさんの感謝の言葉をもらいました。神魂の大きなご守護の中で、無事に任を果たせた喜びに、感無量となりました。

保育コンシェルジュの女性は、新生児を抱える母親たちにいつも明るい笑顔で声を掛けます。「こんなに元気に育っていますから大丈夫ですよ」「これができていますから安心してくださいね」中には孤独を訴える人もあり、「もっとパパに頼ってみるといいですよ」などと、家庭の真理を軸にしたアドバイスが自然と口から出ることもあります。さりげない言葉に愛を込めて、一人一人の心に寄り添っています。

神が表される真理は、誰にでも当てはまる教えとして、多くの人々の心を潤しています。

揺るぎない　家族との絆を

悩みをきっかけに、真剣に教えを学び、「生き方が大きく変わった」と言う人は少なくありません。そこに見えてくるのが、和のある家庭です。

三十代の母親は、生後間もない次女の病気が分かった時に、自分も乳がんを発症し、重なる心身の苦渋に、生きる気力もうせていました。その時に支えとなったのが、夫と子供たちでした。「家族のために生きよう」と祈願ができた時に、神魂の存在が実感できました。入院中に読んだ『真実への道光の足跡』集大成版からは、供丸姫先生の愛が心に染み入ってきました。今の自分は、神魂に守られている存在であることも深く悟れました。幸い抗がん剤の効果が大きく表れ、薬の副作用もほとんどなく、家族と共に一日一日を大切に過ごしています。

山あり谷ありの人生では、予想もしない現実に直面することもあります。そのようなときこそ、それまでの生き方を振り返り、神の教えで成長できる良い機会と捉えたいものです。

七十代の夫が原因不明の病で緊急入院をした時、妻の心によぎったのは、「夫に感謝もなく、わがままばかりだった私の生き方は…」という反省でした。夫の意識が戻った時、心からわびて、「これからは優しい妻になるからね」と、感謝の思いを伝えました。

神の教えは、家族の絆を軸に、多くの人との縁を深めて、生きがいにあふれた毎日が送れる真理の数々です。その価値を悟り、悔いのない人生を歩んでいきましょう。

夫婦の心が重なって
仲むつまじい二人に

神寿の集い

神示を基に家庭の在り方を見詰める

心の絆が力の源に

二人の人生が一つに重なり、歩みだす神受祭。永遠の愛を誓う二人に、神は目には見えない「夫婦の印」を授けてくださいます。二人を結ぶ心の絆は、人生のさまざまな困難を乗り越える力となっていきます。

「妻と話すと、自分を冷静に振り返ることができる。おかげで職場の人間関係も解決できた」「子育てが始まってから、以前よりも夫との会話が増え、一人で大変なときでも、夫の支えを感じて頑張れる」いつでもお互いの思いを共有することで、相手を支え、補い合えます。

時には、二人の気持ちが擦れ違うこともあるものです。家事を手伝わない夫に不満を感じていた妻は、教えを学び、「健康で動けるのだから、夫が活躍できるように、自分のできることを精いっぱいやろう」と思えるように。ある時、夫に「いつも尽くしてくれてありがとう」と感謝され、気持ちが晴れました。愛情を持って触れ合うほどに、信頼は深まります。

出発点に立ち戻る

神から「夫婦の印」を授けられた二人が、年に一度、神示を基に心を振り返り、夫婦のつながりを強くするのが神寿の集いです。ことしも、神受祭を挙げた大勢の夫婦が、全国の神の館で出席しました。

会の中では、三組の夫婦が、つらいことも、うれしいことも、二人で分かち合っている様子を発表。続いて、供丸光先生が、神示を軸に夫婦の心の在り方、関わり方がいかに大切かをご指導くださいました。

出席者からは、「発表者の話に勇気をもらった」「夫、妻それぞれの生き方を再確認できた」「伴侶への感謝が薄れていた。きょうから再スタートです」と、前向きな声が届いています。

これまでは、夫が仕事で都合がつかず、結婚三十年目になって、やっと二人そろって出席できた夫婦がいます。「一緒に学び、会場の空気を共有できてうれしかった」と、笑顔で会場を後にしました。

出席者の中には、神寿の集いに重ねて出席し、「妻がやること」「夫がやること」と押し付け合っていたことに気が付いた夫婦もいます。きちんと向き合い、何でも二人で取り組むうちに、あうんの呼吸で助け合えるようになりました。

出席したどの夫婦も、原点に立ち戻り、教えを生かそうと心を新たにしています。一年一年二人の愛情が深まり、笑顔の絶えない、和のある家庭が実現するでしょう。

和のある家族の輪が広がって

真理を深める光友会
輝く存在へと成長を

生活に生かせる教えを学びから

光友会は、社会で役立つ人を目指す若人が集う登録制の会。教主ご同席の下、毎月全国中継で開催しています。回を重ねる中で、「物事の真実、不実を見極められて、情報に振り回されなくなった」「何事も真理で見詰めると、正しい行動が取れる」と、それぞれに成長を感じています。

「自分の器を越えないとは…」「教えを生かす難しさが…」疑問や確認したいことを発言し、皆で考えながら進める展開も魅力の一つ。教主のご指導から、「うまくいかない原因が分かった」「今やるべきことが明確に」と、的を射た努力のヒントがつかめます。

任と立場をわきまえた生き方は、早速実践に。「ワンマンな上司でも、感情を入れないで、しっかり向き合おう」「意見を言うにも、周りへの配慮を忘れずに」気付いたことを日常に取り入れるにつれ、互いの関係が良好になり、調和の取れた環境が生まれることを実感していきます。

心を高め合う発言が次々と

真理を学び、奉仕心が芽吹くと、周りを見るゆとりも生まれます。接客業に携わる女性は、苦情を言う客におびえるスタッフの姿が目に入り、対応を交代。「少しでも嫌な気持ちが取れたら」と、親身に客の話を聞くうちに空気が和らぎ、仲間から頼られるようになりました。また、営業成績を上げることに躍起になる人が多い中、同僚に気配りし、後輩をフォローする青年も。上司から、「君はこの部署になくてはならない人」と、一目置かれています。

「あの人は信頼できる」「みんなの手本に」「どんなときも、周囲のことを考えられる人」教えを心の軸に据えるほど、周りからの評価も得られます。奉仕心を身に付け、自身の力を発揮しようと取り組むことで、一人一人が輝く存在に成長しています。

心のかけ橋

相手を思う心に　仕事の喜びが

埼玉県　七戸綾香

私は、飲食店で接客の仕事をしています。お客さまとの触れ合いには、多くのやりがいを感じる毎日です。これも、光友会で「自分にできることで精いっぱい人に奉仕することが大切」と学んでいるおかげと思います。

店の方針で、マニュアルにないサービスも自分で考えて提供します。私は絵が得意なので、時間があると、お子さんの似顔絵をプレゼントしています。外国人の方には、折り鶴を差し上げることも。どの方も、とても喜んでくださいます。「この店の接客が好き」「いつも明るくて素晴らしいね」と言われることも多く、うれしいです。

相手を思う気持ちで取り組むと、お金のためだけに働くよりも、得られるものがたくさんあると感じています。仕事を通して、自分の存在感が出せることにも感謝です。学んだことを心の支えにして、温かい接客をしていきたいです。

祖母の立場で　温かい接し方を

香川県　小野高子

ある日、近くに住む孫が「塾をやめたい」と言い出しました。話をよく聞くと、通うのが大変なことや、やめても勉強を頑張る気持ちを素直に話してくれたのです。

孫のために何ができるかを考えた時、勉強会で学んでいる家庭の大切さを思い出し、娘に話しました。娘は、孫の思いを受け止め、婿も交えてよく話し合ったようです。

その後、孫から「心が落ち着いたよ。ばあちゃんの孫でよかった」というメールをもらい、うれしかったです。娘と婿が真剣に孫と向き合ったからこそ、本人も心を見詰められたと思い、若夫婦への感謝が湧きました。

今は、自宅で勉強する孫を応援しています。今後も、家族を見守り、みんなのためにできることをしていきます。

娘の純粋さに　元気をもらって

東京都　丸山教江

先日、六歳の誕生日を迎えた娘に、「生んでくれてありがとう」と言われました。以前、「生まれてきてくれてありがとう」「あなたはパパとママの宝物」と話したことを覚えていたようです。

家事や仕事でゆとりをなくし、つい強く叱ってしまいがちな私でしたが、娘の純粋な心に触れて、「この子の良さを伸ばす接し方をしなければ…」と心に決めました。

幼稚園で年下の子の面倒を見たり、私の体調が悪いと、「ひなちゃんが付いてるよ」と気遣ってくれたり、優しさが育まれていることをうれしく思います。子育ては大変でも、毎日私の話を聞いてくれる夫や義父母に感謝です。

周りに安らぎを与えられる、日だまりのような大人に成長してほしいと願っています。

車の清めの儀　家族の縁が深く

横浜市　山上栄子

先日、四十代の娘が免許を取得し、車の清めの儀に孫と一緒に参列しました。儀式の中で、車だけでなく、家族の心も清められるという伝導師の言葉を聞き、胸がいっぱいになりました。

当初は、運転への不安があった娘も、「楽しんで乗ろう」と、心が軽くなったようです。最近では、休日に孫とドライブするなど、より親子の縁が深まっています。私にも、「家まで車で送るよ」と、何かと気遣ってくれます。車中ではいろいろな会話ができて、楽しい時間です。

私も、子供や孫たちに温かく接していこうと、あらためて心に誓っています。儀式を受けて、家族の心のつながりが強くなったことに感謝です。

病で気付いた　感謝と報恩の心

愛媛県　上田　繁

一昨年、病気が見つかり、健康が取りえだった私は、現実を受け止められませんでした。

それでも、不安な心を祈願し、神の教えを学ぶうちに、「気長に病気と付き合おう」と、前向きになったのです。ことし受けた手術にも、穏やかな心で臨めました。術後の経過が良く、先日、職場に復帰できたことに感謝が込み上げます。

以前は、給料さえ持って帰れば、家庭での役割は果たせると思っていました。それが、病気を機に、家族や周りの支えがあって生きられると、実感したのです。それを家族に話すと、娘に「パパかっこいい」と言われ、親の背中を見せるとはこういうことかなと、自信がつきました。感謝を伝え合うこともでき、病を通して、家族が一つになれたと思います。

病になったからこそ、立ち止まり、大切なことに気付けました。命があることは当たり前ではなく、恩返しする時間を頂いたと感じます。生きている時を大切に、一人でも多くの人と関わり、役に立ちたいと思います。

編集後記

人を批判したり、否定したり、争うことが平気になっている現代。社会に調和をもたらすには、物事との正しい関わり方が必要です。正しい人間関係です。それができたとき、自分の存在が生きてきます。人を愛し、人に愛される自分となることを目指しましょう。

神に　先祖に　感謝を伝える
光寿信者参拝時
9月23日～11月15日
神魂に一年の御礼を届ける
愛礼の儀

家族で心の故郷へ
神玉祭で先祖に
仕合せな姿を見せて

記念祭から
直使、代神への
感謝が新たに
楽しい催し物もたくさん
青少年、音楽家のステージ
供の会、実りの集いの展示
全国の銘品市など

◆詳細は公式サイトでご案内